

ハカマの有効活用事例について

製糖時に排出されるさとうきびのハカマ（葉柄）は、堆肥化するなどして活用されていますが、他にも多くの使い道があります。

ここでは、過去数年の実証から得られた活用事例や実証・取組状況を紹介します。



排出されたハカマ



ブロック化したもの

○畜産

畜産では、牛舎敷料としての利用実証を数戸で行いました。

雨に濡れずに低水分であれば、敷料として有効活用できましたが、工場排出後に一旦雨に濡れたハカマは、敷料としての利用価値が低くなりました。

ハカマを利用するためには保管施設が必要であることなど、実証したことで有効利用に向けた課題が整理されました。

なお、今シーズンでは、低水分で粉砕したハカマでの実証を予定しています。

○しょうが

しょうがは土壤乾燥を嫌いますが、梅雨明け後にハカマを畝上に敷くことで、土壤水分の保持が可能となります。

また、降雨時の表土流出を防止できます。



ハカマの畝上敷設

○品目共通 ほ場表土の流出防止

